

〈中間報告〉

1 平成20年度研究主題

「心豊かで自立する力の育成（2年次）」
～学級経営や体験的活動の充実を通して～

2 主題設定の理由

本校は教育目標を、次のように掲げている。

知・徳・体の調和がとれ、自らに誇りを持って、心豊かにたくましく生きぬく生徒を育成する。

「知・徳・体の調和がとれる」生徒を育成するためには、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、規範意識を高めることと気力の充実が必要である。また、「自らに誇りをもつ」ためには、自分の価値観や考えを、他者との交流の中から見つめ直し、正しく判断し、行動することが必要である。さらに、「心豊かにたくましく生きぬく」ためには、覇気と気力に満ち、学習や、行事、部活動において、積極的に行動できる健康な心身を育むことが大切である。

本校の生徒は、比較的明るく、素直で、良い面を多く持ち合わせている。そのため、学校全体が落ち着いた状態にある。しかし、社会のモラルの低下や人間関係の希薄化により、子どもたちの意識や行動にも少しずつ変化が見られるようになった。

そこで、子どもたちが気力を充実させ、心豊かに自立し、生き甲斐のある人生を送られるようにするために、望ましい人間関係づくりや規範意識の高揚、思いやりの心の育成が必要である。

そのために、本校では、昨年度から「学級経営や体験的活動の充実」を図る取り組みを行っている。学習の基礎・基本を定着させるとともに、話し合い活動や係活動を活発にさせることで、生徒の学ぶ楽しさや成就感、さらに、生徒の自主性や協調性を育むことができると考える。また、ボランティア活動や、旅行・集団宿泊的行事、職場体験学習などの様々な体験活動を充実させることで、豊かな人間性や社会性を身につけることができると考える。

3 研究の視点

- (1) 学級経営の充実に関する研究
 - ① 望ましい集団づくりのための指導の在り方の研究と実践
 - ② 3学年を通した進路指導計画の作成、指導の充実
 - ③ 生徒の自治能力を高める学習内容や形態の工夫
 - ④ 主体的な生徒会活動や学校行事への生徒の積極的な参加

(2) 体験的活動の充実に関する研究

- ① 自然体験やボランティア活動等の推進（宿泊学習，地域清掃，地域行事への参加等）
- ② 各教科や道徳及び総合的な学習の時間との関連の深化
- ③ 進路に関する体験活動の充実（職場体験学習，高校体験入学，先輩に学ぶ学習等）
- ④ 家庭・地域との連携による豊かな教育環境作り

4 研究の全体計画

(1) 研修の努力点及び具体策

① 努力点

教師の資質向上のための，校内研修や校外研修の充実に努める。また，研究テーマに基づき，全体・学年統一した指導の充実に努める。

② 具体策

- ア 授業を核とした校内研修の充実
- イ 学年部会・教科部会・分掌部会の充実
- ウ 生徒指導についての事例研修等
- エ 道徳研究会を活用した校内の道徳指導の充実
- オ 研究テーマに沿った実践を通じた研究とそのまとめ
- カ パソコン研修と活用の促進
- キ 標準学力検査や「基礎基本」定着度調査の活用方法についての研修の実施
- ク 先進校視察や教育教育センター等の教育機関を利用した研修の促進

(2) 研修計画

月	研修内容	月	研修内容
4	校内研修計画	8	特別活動（進路指導）
5	小中連携研修会（鴨池小）		生徒指導（不登校への対応）
6	特別活動（今年度の取組）	9	教育課程
	標準学力検査の分析	1 2	人権同和教育
	道徳教育	1	特別活動（まとめ）
7	学活・道徳・教科（研究授業）	2	進路関係
8	パソコン・情報教育		
	生徒指導（ストレスマネジメント）		

(3) 研究テーマに対する取り組み

1年次にあたる昨年度は，県特別活動研究大会（平成19年10月16日）会場校としての取り組みを通して，特に，「望ましい集団づくりに関する研究の実践」を行い，学習の取り組み方や，話

し合い活動の方法等を身につけさせることで、学習基盤を築く取り組みを行ってきた。

2年次にあたる今年度は、体験学習や教科との連携を図った、3学年を通した進路指導の工夫について研究を行う。

5 研究の実際

(1) 3学年を通した進路指導計画の作成，指導の研究とその実践

① 計画作成のポイント

- ア 地域や学校，生徒の実態等の把握
- イ 生徒の興味・関心，能力・適性の十分な分析と理解
- ウ 自主的・実践的な話し合い活動の充実
- エ 体験的活動学習との連携

② 実践例

1 題 材 「人はなぜ働くのか」(2年)

2 めあて

- ア 身近な人の職業に対する考えを聞き，働くことや職業についての理解を深める。
- イ 話し合い活動を通して，働くことについての疑問点を積極的に解決し，進路情報を得る。

3 本時の実際

過程	活動の内容	時間	指導・援助の留意点・準備
活動の開始	1 開会の言葉を述べる 〈進行係〉 2 活動のテーマ発表 人はなぜ働くのか考えてみよう 3 本時の活動の進め方を説明する 〈進行係〉	3分	2 テーマを短冊に書かせておく 3 掲示用進行表を作成しておく。
活動の展開	4 職業希望調査の結果と職業選択の理由を発表する。 5 人はどうして働くのか班で話し合う。 6 話し合ったことを発表する 7 働くことの意義について保護者より話していただく。 8 働くことについての疑問や聞きたいことを保護者に質問する。 9 これまでの活動を通し，人はどうし	2分 10分 12分 10分 10分	4 アンケートの結果を広幅用紙にまとめさせておく。 5 班でまとめさせる。 6 短冊に書かせ黒板に掲示する 7 保護者から働くことの意義について意見をもらう。 8 保護者からできるだけたくさん答えてもらう。 9 2～3人代表で発表させる。

	て働くのか自分の考えをまとめ発表する。		
まとめ	10 教師によるまとめの話を聞く 〈 教師 〉 11 閉会の言葉を述べる。 〈進行係〉	3分	10 授業に参加してくださった保護者への感謝の気持ちと、生徒を中心にした活動ができたことを評価し、今後の活動への意欲化を図る。

4 評価

ア 身近な人の職業に対する考えを聞き、働くことや職業についての理解を深められたか。

イ 話し合い活動を通して、働くことについての疑問点を積極的に解決し、進路情報を得られたか。

<成果と今後の課題>

① 成果

- ・各学年で、同じ指導案を作成し、日曜参観に一斉指導を行った。保護者の方々が、参観をし、進路指導と一緒に考えてくれるよい機会となり、進路指導の家庭との連携にも役だった。
- ・働くことの「意義」や「大変さ」を理解することができた。
- ・進路選択や、今後の進路学習の意欲向上につながった。
- ・学級の話し合い活動の仕方が定着してきた。

② 今後の課題

- ・各学年の進路指導計画を見直し、共通実践をする内容を考える必要がある。
- ・学級組織が後期に移行するため、話し合い活動や、学習の取り組み方などの学業指導を徹底する必要がある。
- ・体験的学習との連携と、体験学習の事前事後の活動の計画を工夫する必要がある。